

# 第56回

【テーマ別】

## 市民と市長のタウンミーティング 報告書



○期 日 平成26年7月13日

○会 場 0123 はらっぱ

武蔵野市



## まえがき

武蔵野市では、市民が自らのまちを自らの手で創りあげていく市民自治の基本に立ち、市民と行政が一緒にまちづくりを進めていくプロセスを大切にしたいと考えています。

そのひとつの手法として、市民と行政が「同じ目線」「双方向」で、地域の課題や市政全般について率直に意見交換を行う場として、「市民と市長のタウンミーティング」を開催しています。

この会には、地域のまちづくりの拠点であるコミュニティセンターを会場として、市とコミュニティ協議会が企画・運営方法を協議し、協働して実施する「地域別タウンミーティング」、テーマを設定して、そのテーマの関連団体にご協力をいただきながら実施する「テーマ別タウンミーティング」、そして屋外において実施する「青空タウンミーティング」がごございます。

テーマ別では、「商店街の振興」や「災害に強いまちづくり」、「地域で支えあう福祉のまちづくり」、「災害時に試される地域力」などを開催しています。また、学生やシニアの方、外国人の方たちとは、まちづくりや活躍の場などについて意見交換を行いました。

今回は、「子ども子育てつながる武蔵野」をテーマに、NPO法人子育て応援スペース「とことこ」との共催により、「第56回市民と市長のタウンミーティング」を開催しましたので、その結果を報告いたします。

今後も、市内の様々な場所で、タウンミーティングを開催していくことにより、さらに多くの意見交換を行ってまいります。

武蔵野市長

**邑上守正**

## 概 要

1. 日 時 平成26年7月13日（日）  
午前10時～12時
2. 場 所 0123はらっぱ 多目的室
3. 主 催 武蔵野市  
NPO法人子育て応援スペースとことこ  
協力：子ども協会
4. 参加者数 42人
5. 主催側出席者 市 長 邑上 守正  
NPO法人子育て応援スペースとことこ 理事長 平湯 友子
6. 司 会 NPO法人子育て応援スペースとことこ 臺 久美子  
市民活動担当部長 秋山 真弘
7. テ ー マ 『子ども子育てつながる武蔵野』



## 1. 発言の要旨

### (1) 開会のあいさつ

#### 【市長】

おはようございます。本日は、タウンミーティングにお越しいただきましてありがとうございます。2時間ではありますが、ぜひ密度の濃い意見交換ができたと思っています。前半はグループ討議をしていただいて、それを踏まえて私と意見交換をさせていただくという予定です。



さて、おかげさまで、武蔵野市内の人口はこのところ若干ですが増えています。全国的には人口減少時代を迎えていて少子化と言われておりますが、武蔵野市は逆行していきまして、うれしいことに子どもの人口も増えています。今まではゼロ歳から19歳までの各年齢の人口が、1,000人以下でしたが、このところ年を追うごとに1,000人を超え、1,100人を超え、今、ゼロ歳児が子どもの中で一番人口が多くて1,260人ぐらいになっているということで、うれしい反面、待機児がまだ解消できていないということもあり、大変申しわけなく思っています。しかし、ご案内のとおり、今さまざまな保育施設の開設を予定しております。また、すくすく泉という新しい施設も、井之頭小学校の隣にこの7月末にオープンすることになりました。これは、公園の中に複合的な子育て支援施設を設けるということで、160平米の小さい施設ですが、子育てひろばや一時預かり、そしてグループ保育などをスタートいたします。大きな施設も大切ですが、地域にこのような拠点を設けていくということも大切ではないかと思えます。日々、子育てを通じていろいろな課題があろうかと思えますので、ぜひ今日は屈託なく意見を出し合っただけならと思います。それでは、どうぞよろしく申し上げます。

#### 【平湯理事長】



おはようございます。子育て応援スペースとことこ、理事長の平湯友子と申します。

武蔵野市の八幡町と関前に、預かり保育や親子広場を中心に、お子さんとお母さんたちを応援するスペースをとということで10年前から始めました。今回、子どもと子育てというテーマのタウンミーティングを共催することになりました。

今回のテーマですが、大きく2つの思いがあります。まず、「子ども子育てつながる武蔵野」というところでは、子どもを中心に、今、机の上に子どもの顔が描いてありますが、子どものために、子どもを思って大事にしてくれる大人たちには、いろいろな役割があります。幼稚園だったり保育園だったり、ここの「はらっぱ」のような施設だったり、もちろん行政だったり、また、大きな施設ではなくても地域のお母さんたちとかおじいちゃん、おばあちゃん、そういう身近な大人たちみんながつながって、緩やかな連携をとりながら子どもを育てていく、そうや

って伸び伸び育っていくといいなと思い、このテーマをつけました。

もう1つは、「みんなで考えよう」ということです。誰かだけが意見を言うのではなくて、それを誰かだけが答えるということでもなくて、みんなができること、今自分ができる立場のところで守っていこう、大事にしていこうということと一緒に考えたくて「みんなで考えよう」とテーマの前につけました。ちょっと、みんなの前で発表するのはどきどきしちゃうという方もできるだけお話ししやすいようにということで、このようなスタイルで進めたいと思います。どうぞ、いろいろな立場の方の思いや意見をグループの中で聞き合ってください。今日は市役所の職員の方もたくさん来ています。子ども・子育てに関する職員の方もたくさんいます。市長と私も、これいいねとか、こんなことができるといいねという意見をフランクに言いながら、皆さんのテーブルをくまなく回っていこうと思っています。

今日は、みんながこれから子どもと子育てを考えていく上での、心の引き出しを増やしていく、そんな会になるといいなと思っています。どうぞよろしくお願いします。

### 【小宮山園長】

皆さん、おはようございます。0123はらっぱの園長をしております、小宮山と申します。

今日は、子育てについてみんなで考える会ということで、生の子育てに対するいろいろな意見が聞けると思い、とても楽しみにしておりました。私もグループの中に入りたいと思いますので、どうぞ意見を聞かせてください。よろしくお願いいたします。



## (2) 子育てに関する事業や制度についての説明（要旨）

### 【市 長】

それでは、ちょっとお時間をいただきまして、私からさまざまな子育て関連の事業や、制度について、若干説明をさせていただきたいと思います。

武蔵野市の子ども的人口が増えてきたという話をしましたが、現在、5歳児以下の人口が、4月1日で6,900人ということで、かなり増えておりまして、5年前と比べると20%弱ぐらい増えています。そして、この6,900人の子ども達がどのような施設とかかかわっているかというところ、3歳から5歳の約2,000人が幼稚園、そして0歳から5歳までのうち2,000人が保育園、残りの2,900人がまだ保育園にも幼稚園にも通っていないという状況です。子どもたちの状況は、大ざっぱですがそのように分かれております。そしてご案内のとおり、今、新制度と言われております。国が幼稚園や保育園に限らず、さまざまな子育て支援、あるいは子どもたちの教育をより一層充実していこうという理念に基づき、予算を伴って対応していこうということになっています。



ところが、その予算の財源であります消費税が最終的に10%になったとしても、なかなか予定された財源の確保の見込みがまだない状況です。いろいろな施策や事業を予定していますが、それを全てやると1兆円以上かかることになってしまいますが、その財源の見込みが7,000億円までしかありません。国においてはこれからどうやって財源を確保するのだろうか、大変心配ではございますが、国の制度を我々がきちんと運用しなければいけないということもあって、今、担当課のほうで一生懸命、来年度から始まる新制度に向かって準備を進めているところです。

例えば、保育園については、結果から申しますと、そんなに大きく変わることはありません。ただ、事前に、皆様方がどの程度保育園に入りたいと思っているのか、実際に入るにあたり、どういう段階の方がいらっしゃるのかなど事前の調査をし、判定をします。その判定に基づいて、それぞれ保育園や幼稚園に行っていただくということになります。ただ、保育園については、現在待機児が多い状況となっておりますので、希望どおりにはなかなかいかない状況ですが、ゆくゆくは保育園の定員が確保できて、待機がなくなったとすれば、保育園でも幼稚園でもご希望にかなうようになるというのが国の考え方です。現場を抱える者としては、そこまですぐにいくのか心配をしているところですが、そういう方向に向かっているということだけは、共通理解をしていただければと思います。

武蔵野市では、さまざまな子育て関連、子ども教育の関連をまとめた総合的な計画を策定してまいりました。そして、国が言っておりますこれらの計画については、武蔵野市は先んじて行っておりまして、こういったさまざまな子どもに関する分野を一元化した計画を掲げて、体系的に整理し実行しております。現在、第四次子どもプランということで、総合的に見直しをしているところです。この見直しにつきましては、ホームページ等でも、順次経過

は報告しておりますので、いろいろなご意見をいただければ、協議会等に伝えていきたいと思っております。他にも意見を言う場がございますので、そちらもお知りおきいただければと思っております。

次に市町村子ども・子育て支援事業についてですが、まさにこれが子どもプランに関係するもので、国がいう市町村子ども・子育て支援事業計画、5カ年計画というものを、今回の第四次子どもプランの中に包含するというので、今策定を進めているところです。基本的には、計画的な整備をしていこう、皆様から要望を聞いて、あるいは需要を予測して、それに見合った施設計画を定めて、そして受け入れをしていこうという計画ですので、武蔵野市でもさまざまなニーズ調査をさせていただきました。それを踏まえて今後、必要な保育施設、量、数等を掲げていこうというところです。

それから、待機児童対策・新たな保育施設の整備についてですが、今年度の4月1日時点での待機児童数が208人ございました。この数については大変重く受けとめておりまして、何



まちの保育園吉祥寺

とか待機児を減らしていきたい、なくしていきたいという思いで、今年度の計画を掲げています。認可保育園では2つの大きな保育園の開設予定がございます。まず、「まちの保育園吉祥寺」、これは井之頭小学校の隣に現在建築中で10月1日にオープン予定です。そして、「ニチイキッズ武蔵野やはた保育園」、これはちょうど中央公園の目の前に、定員80名ということで平成27年4月1日にオープン予定となっております。

また、認証保育所については3施設ございます。まず、「キッズガーデン武蔵野関前」、これは6月1日に既にオープンしております。そして、「日生吉祥寺保育園ひびき」、これも7月1日にオープンすることができました。それから、「風の子保育園」については、移転拡充により、31名の定員増を予定しておりまして、10月1日にはオープンの見込みとなっております。

今まで保育園をどのように拡充してきたかという数字については、平成24年度では合計で1,750名の定員だったものを、今年度、291名を増やそうと努力しているところで、平成27年度には2,294名となる予定です。さらにさまざまな状況の変化によりましては、軌道修正も必要かと思っておりますので、また注目していただきたいと思っております。

次は、子育て支援サービスについてです。妊娠期から5歳までということで、お母さんの健康とお子さんの成長をサポートする事業、子育てや子どもの成長についての相談事業、地域で遊ぶ・子育て仲間をつくる事業、子育ての知識を深める、子どもを預ける、手当・助成、ひとり親家庭支援、障がいのあるお子さんへの支援ということで、全て網羅していないかもしれませんが、さまざまな段階に応じて必要なサービスを現在、提供しているところですが、これらにつきましてもぜひ、こんなところが足りない、これはもういいのではないかという



子育て支援情報誌  
「すくすく」

ことも含めて、さまざまなご意見をいただければと思っております。

最後に、皆様がかかわっていただけるような事業や施設を一覧にした「すくすく」という冊子がございますが、平成26年版が8月に完成予定ですので、また新しいものができましたらご参照いただければと思います。

以上、ちょっと駆け足で武蔵野市の今の動き、概括をお話ししましたので、これらの情報をもとにこれから意見交換をお願いしたいと思います。

### (3)「子ども子育てつながる武蔵野」をテーマにした意見交換（要旨）

#### 【司会】

事前に配布したプレアンケートに各々の意見を記載していただき、それらをきっかけとしてグループごとに話し合いを行った。

(グループワークのあと、グループ順に発表)

#### 1. 各グループからの報告

##### 【1グループ報告】

1 まず、いいところを出た意見では、公園や自然が非常に充実していて、0123施設のようなものもあるということで、そういったところはほかの市よりもすぐれているのではないかといいこと。こうなったらいいなということについては、まず認証保育所に通っているけれど保育料が高くて、そういうところへの支援をしていただきたいということや、認可保育園を増やしてほしい、それから男性でも子育てしやすい環境づくりをもっと進めていったらいいのではないかといいこと。そして、市民の思いが行政に反映されるような仕組みをもっとつくって、いろんなアイデアを実現してほしいというような意見が出た。

私にできることということでは、もっと市長の価値観を発信してもらい、価値観を共有できればいろいろなことに協力できるよ、やっていけるよというような積極的な意見も出てくるのではないかと思います。それから保育園を軸に地域のコミュニティをつくり、共働き家庭でも保育園を通じて地域に貢献できるようなコミュニティ形成をやっていただけたらというような意見が出た。



2 武蔵野市のいいところは幾らでも出るが、悪いところはあまり思いつかなかった。ほんとうにいい市だなと思っている。今日、ここに来ている人たちは主に育児中の人たちだと思うが、やはり一方で、ここに来ていない方で育児にお金を使うなと考えている方もいると思うので、いろいろところで予算の引っ張り合いがでてくると思う。おそらく皆さん、武蔵野市がある程度好きで住んでいる方が多いと思うので、共通する利益や市長がどのようなまちの運営をしたいと思っているのかなどを、広報紙等でもっとPRしていただければと思う。私はこんなことができるということでも、ニーズがあればとか、価値観が合えば何でも協力するという意見もあるので、そこは市長の腕にかかっていると思う。

3 春までに新しい保育園が見つからなければ、休職せざるを得ない。今、市外の認証保育園に子どもを預けているが、その市外の認証園も今度、認可保育園になるということで、市外のお子さんは預かりません、3月までですと言われている。何とか保育園が見つかって、地域で子育てができて、皆さんと一緒にコミュニティ形成をして、参加できていたらと思っている。

##### 【2グループ報告】

1 いいところとしては、1グループと同様、公園がたくさんあったり、緑があったり、施設も

充実しているという声が出た。意見としては、このグループは共働きの方が非常に多いので、やはり絶対的に保育園が不足しているのを解決してほしいということ。こんなことになったらいいというところでは、保育園が地域コミュニティの核になっていって、地域との触れ合いができるといい。例えば、地元のお祭に参加したり、今、核家族化がすごく進んでいる中で、おじいちゃんおばあちゃんがもっと地域の子育てに参加したりというようなことで、もう少しつながりが増えていくといいねというような話にもなった。1グループと同じだが、こういった地域の課題があることに對して自分自身も、例えば商店街のお祭に参加するとか、サークルを立ち上げるというようなことで協力していくというような声もたくさん出た。

あともう一つ話題になったのが一時保育制度について。今、保育園自体がいっぱいであるために、一時保育の制度を利用して働いている方がいることによって、本来であれば、その一時保育の対象としてもっと使ってほしいと思うような方が使えていないという状況がある。やはり保育施設の絶対的な拡充によってもう少し一時保育の制度が、本来の形で利用されるようにしてくれれば、2人目、3人目も産みやすくなるのではないかという話題も出た。

2 例えば西部地域では、桜堤児童館が縮小したが、それに対して歓迎する声もあれば、それによって遊び場が日中なくなったと、ちょっと不満を持っている人同士の話が聞こえてきたりする。例えばマル乳が、全体的な予算が保育園の拡充で必要だから所得制限を設けるといったような話になっていくと、何で働く家庭ばかりみたいな形になっていくようなことがあってはいけないという思いを持っている。

### 【3グループ報告】

武蔵野市のいいところについては、若いも若きも、お金がある人もない人も楽しく暮らしている、魅力ある人たちがいるというところが、やはりこの市の魅力ではないかという意見が幾つも出た。いろいろな制度や設備も充実しているところもいい。さらにこうなるといいなということについては、そういうさまざまな世代の人たちが、相互理解のためにかかわれる、ボランティアなども含めて参加しやすいネットワークづくりみたいなものができること、ふだん仕事をしていて何も参加できないような人でも、やってみたいなと思うようになれるのではないかという意見もあった。

それと、私にできることについては、やはり子育て中のことになってしまうが、自分の地域の中だけでいっぱいになってしまうところもあるので、保育所、あるいはコミセンでもいいが、認可保育園、認証保育園などが地域の中心となって子育てをサポートできるような仕組みが新たにでき、充実していけば、一人で困っているお母さん、お父さんもいなくなっていくのではないかなという意見が出た。

### 【4グループ報告】

武蔵野市のいいところについては、非常にコンパクトなまちだなということで、現場で、保育関係で働いている人の声を聞いても、ぱっとみんなで集まろうかというところ集まることできるし、生活するにしても吉祥寺方面には商業施設の大きなものもあれば、地域には緑も多い。そういうのはほかの市や区などに比べてもかなりいいのではないかと捉えている。

子育てについては、施設に関してはほかのグループとはちょっと違って、結構、施設はあるのではないのかという意見がでた。多分このグループは子育てをしている人というよりは、施設で

働いている人が多かったので、施設の数としてはあるけれども、施設同士や子育てをする人間同士のつながり、ネットワークであるとか、情報を集めて必要な人のところにどう届けるのか、もしくは必要としている人間はどう情報を取りに行くのか、そっちも大きな課題ではないかということがあった。



情報の提供ということでは、例えば、幼稚園などの情報を、それぞれの幼稚園や保育園に行って取ってきているが、子どもが2～3人いてそれをずっとやっているのも結構大変なので、まとまったところでワンストップで話が聞けたりするところもあつたらいいなという意見がでた。

自分たちにできることというところでは、いろいろ議論はあつたが、子育て世代のほうとしても今ある保育園や幼稚園に入れれないという現状がある中で、自分の働き方をどういうふうに変えていくかという意見などがあつた。子育てに関して、現状でいろいろなところでさまざまなストレスがある状況で、それぞれの人間が今までと同じやり方をしていてはうまくいかないのではないかと、働き方にしても、やはり保育園にうまく預けられないということは、労働問題という観点もあるのではないかと話も出て、それは非常に興味深かつた。

#### 【5グループ報告】

第5グループでは、いいところについてはほとんど他のグループと同様の意見が出た。他には、コミセンの数がすごく多いのが、文化的な、歴史的なところを感じるということで、そういうところを全部含めて教育の水準がすごく高いのではないかと話が出た。それから、公園もすごく多くて充実しているが、今、ボール遊びができる公園が、危ないから禁止となってしまうところが増えている。私は西部地域に住んでいるので、小金井公園や、近くにもボール遊びのできる公園があるので特に不便は感じていなかったが、中部や東部地域、それから境南町は、近くに思い切りボール遊びのできる場所というのがない。子どもは近くでボール遊びをしようと思ってもできないというのは、ちょっとストレスかなという意見が出た。

たくさん意見が出た児童館について。今、武蔵野市には桜堤児童館が、1か所しかない。他の市では、府中市では13ぐらい、西東京市では11ぐらい、小金井市では、4カ所ある。武蔵野市は1カ所しかなくて、しかも今、スペースが半分になっている。2階のスペースが全部使えない状況で、保育室まゝ入っているが、それは待機児童の対策なので必要なことではあると思うが、児童館のよさをもうちょっとわかっていたらいいと思う。子どもは段階的に、だんだん成長していくものだと思う。0123歳は0123、幼稚園児や保育園児はその施設、小学生は小学校で遊びましようというふうに、かなり区別して考えていると感じるが、子どもはだんだん大きくなる。0123はいい施設だと思うが、その該当年齢でなくなったら遊べなくなる。そこをよく考えて、0123だけではなくて、小学生も遊びたい、幼稚園に行っている4、5歳の子だって遊びたい、そういうのを全部カバーするとやはり児童館がほんとうに必要なと思う。

それが少子化を食いとめることにもつながるのではないと思う。小さいお子さんだけだと、お母さん、お父さんたちは同齢の子どもたちのことしか話せないと思うが、児童館だと小学生のお母さんもいたりして、小学生になるとこんなこともできるんだ、中学生ってこんなに立派なん

だ、逆に中学生や小学生のお子さんは、小さい赤ちゃんを見てすごく大事に思ったりすることがあって、兄弟が、少なくなっている世の中で年齢を超えたかかわりができるのは児童館とか、そういう区別のない施設ではないかと思う。それがすごく今、武蔵野市に欠けている部分なのではないかと思う。

あと、高齢者の方々となかなか交流する場所がないと思う。コミセンがさっき話に出たが、もしコミセンがたくさんあるので児童館が増やせないのであれば、児童館とコミセンをドッキングさせたような施設で、子どももおじいちゃんおばあちゃんもかかわりながら、見守りながら子どもたちの成長を見届けられたらいいのではないかと思う。そんな意見も出た。

### 【6グループ報告】

武蔵野市のいいところについては、一番はよい住環境だということ。海もないので津波は来ないし、地盤もしっかりしているので地震にも強いのではないかと思う。また、緑が多く、都心で働く人にとってもわりと働きやすいといったところが非常に魅力なのではないかという意見が出た。逆にこうなったらいいな、もうちょっと頑張ってもらいたいという点では、やはり待機児の問題という意見が出ている。待機児問題以外のところでは、他のグループの発表の中にも出てきたが、幼稚園世代の施設について、施設だけではなくて中身も、もうちょっと頑張ってもらいたい。あとは保育園を中心としたコミュニティという話もあるが、新たなコミュニティをつくる時には、もともとある地域の人たちとのつながりをきちんと大切にしていくことが大事ではないかという意見も出た。

あと、私ができることについては、やはり自分のこととして参加する必要があるということをお話した。特に自分の得意分野などを発揮して地域に返していくというような意見もあり、とにかくいろいろな形の参加の仕方があるのではないかと、それを自分で見つけて、自分の問題として参加をしていく、そこで仲間を増やしていくということが、コミュニティをつくっていくうえで一番大事なことはないかという意見が出た。また、実際参加をしていくところでは、例えば今年度、第四次子どもプラン武蔵野の策定が進んでいますが、いずれ広報に第四次子どもプラン武蔵野の素案が出るということで、そこで約3週間、パブリックコメントが募集されるとのことなので、具体的に我々が意見をあとに残るような形で発信していくということが、実際に市の取り組みに自分の思いや意見を反映させる一番大事なことだと思う。ぜひ皆さん注目していただき、おかしいぞというところがあればどんどん行動に移していくことをやりましょうと言いたい。



## 2. 施設整備、男性の子育て参加、待機児対策、子育て支援、児童館、子育て世代のコミュニティについて

### 【市長】

いろんなご意見をいただいて、なるほどなと思ったこともあるし、これは情報不足だなと思ったこともありました。

まず、施設関係で言うと、武蔵野市はいろいろな施設があるということで、皆さんもご存じではないかと思います。施設があるということは維持費がかかるということで、これから見直しをすることが非常に課題となっています。もちろん必要な施設は維持していかなければいけない、予算もかけていかなければいけないので、これから先は、今ある施設以上のものをつくるのは難しいということ、皆さんも認識していただきたいのです。例えば小中学校については、約32万平米という面積があり、大きな公共施設ですが、これを維持する、あるいは建てかえるとなると、極めて多くの費用がかかります。

今、市として大きな課題の1つとして市民文化会館の改修がありますが、その費用は40億、50億かかります。子育て関係の議論をする中で、皆さんもこういった市政全般的な考え方も、ぜひご理解というか関心を持っていただきたいと思います。なかなか伝わっていないとご指摘をいただくこともありますが、市としても、あらゆる手段で情報提供に努めております。足りなければまたご指摘いただければ、いろいろな方法を考えていきたいと思っています。

男性でも子育てしやすい環境というご意見がありましたが、今さまざまなお父さんも参加いただいている集まりがあります。例えば、昨晩は井之頭小学校のおやじの会というのをごさいますて、子どもたちに宿泊体験をさせようということで、伝統的な行事をやっています。昨日は父親が約60人、児童が約130名集まり、体育館で寝泊まりしました。そういう場で、男同士、父親同士が交流するというのはすごくいいことだと思います。なかなか機会がないけれども、そ



ういうことに積極的に参加することが、やがて道端で出会ったときに挨拶したり、交流もできていく中で、いざというときにいろいろなつながりや、力が得られるのではないかと考えていますので、そういう父親の交流をもっと大切にしたいと思います。今、保育園世代の皆さんはなかなか機会がないかもしれませんが、なるべく保護者会などに参加していただく中で、徐々にそういう輪が広がっていくのではないかと

思いますので、ぜひ自らつくるというスタンスで、何か地域に関わっていただければと思っています。

それから、保育園が足りないこと、待機児問題については、先ほどもお話したとおりですが、何とか待機児を解消したいというのは切実な思いです。今日もいろいろな課題、指摘をいただきました。認可保育園にもっと入りたい、あるいは認証保育所の利用料の話、いろいろ課題があることも聞きました。そういうこともどんどんご指摘いただけたらと思いますし、その解決に向かっていきたいと思っています。

それから保育園を地域の核にということ、すばらしいことだと思いますが、ただ保育園を利用する方というのはかなり限定的です。保育園はやはり、もっと子育て支援の拠点にしていきたいと考えています。1つはすくすくスタート事業というのを保育園にお願いして、地域の保育園に通っていないお子さん方にも登録いただき、いろいろなつながりを築いていこう、相談をしていこうといったこともスタートしております。やはり保育園には、保育をする専門家がいますので、そういう力も地域に出していければと思っています。保育園は子育ての拠点として充実してい

たいと思いますが、地域の拠点はやはりコミセンではないかと思っています。コミセンは、あらゆる世代が集まって交流を深める場所でございますので、コミセンに課題があるかもしれませんが、どなたでも利用できるコミセン、そしてできれば児童館的機能もぜひコミセンのほうで拡充できればと思います。コミセンも、16のコミュニティ協議会が20の施設を運営しており、大きく施設の規模を拡大するというのはなかなか難しいかもしれませんが、今ある施設をいろいろ工夫することで、多様なコミュニティがもっと育まれるのではないかと考えております。

それから、児童館の話ですが、武蔵野市は単独の施設をなるべくつくらない方向でした。ただ現在唯一、桜堤児童館が残りまして、地域で利用いただいていることは重々承知しておりますが、

全市から見ると非常に偏った施設になっています。しかし児童館的機能をいかに、もっと全市域的に、地域に拡充していくべきかということで、それぞれの施設ではそれぞれの工夫をしていこうということになっています。例えば、あそべえや学童などの連携をもう少し深めて、そこに児童館的な機能をもっと付加できないかとか、あるいはこれからすくすく泉についても、未



すくすく泉

就学児の方に広く利用いただけないかということで、多様な世代のつながりについても、今後、考えないといけないと思っています。確かに0123はすごく評価していただいておりますが、大きくなるとなかなか利用できないですし、あそべえも児童しか利用できないとか、世代間の分断があるというご指摘も重々承知しておりますので、それぞれの施設をもっとネットワーク化して、つなぐということが大きな課題と認識しております。

あと、子育て世代の皆さんは、コミュニティをもっと育てていただきたいと思っています。今は、ネット社会ですからネットを通じていろんな連携が育まれているのではないかと思いますので、そのネットを、世代を超えた皆さんのコミュニティにつなげていけるような仕組みづくりもぜひ考えられればと思っています。もちろん地域のご高齢の方の中には、子どもたちに関心を持っている方も多々いらっしゃるので、お互いがもう少し歩み寄れば、もっといいコミュニティができるのではないかと思います。その拠点がコミセンになりますので、ぜひコミセンをもっと活性化できたらと思っています。

そして、もう1つの拠点となり得るのが、実は学校ではないかと思っています。小学校も中学校もこれから建てかえの計画を考えていきます。しかし、子どもの数は今は微増と言いましたが、もう少し長期的に考えると減っていきます。そのとき小学校に、今の教室の数が必要かと議論もあります。これはきちんとした将来予測を踏まえて、きちんと計画をしなければいけません。学校で必要な教育機能のスペースを確保した上で、おそらく余裕がでてくるであろうスペースについては、もっと地域の利用、あるいは福祉の利用かもしれません、あるいはさまざまなコミュニティの利用があつてしかるべきじゃないか、そういう議論をまさにこれからスタートしていこうというところです。今は学校施設整備計画ということで、どちらかという教育委員会が主体となって議論を進めておりますが、それに地域の思いや希望などの情報を提供して、学校が「開かれた学校」として、さらにコミュニティの拠点としてより一層、拡充できたらいいのではないかと考えております。ぜひ皆さんの声をいただき、届けていきたいと思っています。

最後に、いつでもいろいろな意見をお寄せいただきたいのですが、今年は特に計画作りの年となっていて、子どもプランや高齢者、障がい者の計画もやっておりますし、それから大きな計画としては、市の最も基本的な計画である第五期長期計画の見直しをスタートいたしました。調整計画というかたちでまとめますが、今年から2カ年かけて大きな計画を策定いたします。ぜひそれにも関心を持っていただいて、市民との意見交換会やパブリックコメントなどもありますので、そういう場面でいろいろな声をいただければ、ありがたいと思っています。

### 3. 施設の運用について

#### 【ご意見】

施設の老朽化などにより維持管理にお金がかかることは非常によくわかるが、だとしたら運用上で、弾力的に使っていくようなかたちにしていけないのではないか。そういったところが各施設の実際の担当に伝わっていないのではないかなと思うことがある。

プレイスのパフォーマンススタジオというところがあるが、そこは演劇などの練習に使うためのものということで、子どものパフォーマンス、表現遊びをしたいということで借りたが、それは、誰かに見せるためのものではないため、次回以降は使えませんかと言われてしまった。そういったかたちで目的を細分化してしまったら、せっかくある建物も使えないと思うので、市としての運営方針を現場レベルまでおろしていくようにしてほしい。例えば西部地域にある市民会館の保育室も開けてほしいというような声もたくさんある。せっかくある施設がもっといろいろな形で利用できるような方向にしていいただければと思う。

#### 【市長】

施設については、なるべく利用促進を図ろうという一方で、利用のルールをきちんと定めていこうということで、それぞれの施設では利用のルールがあるのではないかと思います。それに加えて施設ごとの柔軟な対応もあってしかるべきではないかと思います。ただ、プレイスは非常に利用者が多いということもあるので、どちらかという利用の制限をなるべく明確化して運用を図っていこうという方向にあったかもしれません。今日の声をプレイスの方にも伝えて、検討していこうと思います。市民会館の保育室については、待機児緊急対策のほうで一時利用した経過もあって、今、保留にしている状況ですが、もう少し待っていただければと思います。できれば有効活用していきたいと思っています。



武蔵野プレイス

### 4. 保育園の施設整備、保育園を核としたコミュニティ、防災対策、シルバー世代の人材活用について

#### 【ご意見】

子育て以外にもいろいろなお金が必要だという話はわかったが、本当に直近、子育てについて抱えている問題があるので、子育てのことについてちょっと言わせていただきたい。本当に保育園が少ない。市役所のほうに問い合わせると、新しい施設ができますよと言われるが、認

可保育園は、年度途中でできても1カ月以内に復職しないと入れないという状況になっている。会社のほうでは代わりの人を立ててもらって休職しているため、保育園に入れたから、1カ月までの間に会社に戻らせてくださいというのは、うちの会社では不可能。4月入所を目指しているから、いくら年度途中で新しい施設ができて、全く意味がない。4月に新しい施設もできるらしいが、本当に4月に入れる施設をもっと増やしてもらわないと、入れない状況がある。入れなかったら退職することになってしまうので、すごく悩んでいる。夫婦ともに働いていて、現在の採点方法の200点満点でも、下から数えたほうが早いぐらいの順位だったという話を聞いたりするので、それってどんな意味があるのだろうかという感じがする。200点満点だったら入れるような状況じゃないと、全く保育園の意味がない、この制度の意味がないと思っているので、いろいろお金がないのはわかるが、もう少し、そちらのほうも考えていただきたいと思う。

#### 【ご意見】

保育園に入れないということがこんなに辛いと思わなかった。春に何とか受け入れてくれるところを見つけたが、毎日、市外に子どもを預けて出勤している。自転車で一生懸命通っているが、それだけでも1時間のロスだし、雨の日はバスのルートもうまくつながってなくて、途中からずぶぬれになりながら、子どもを抱えて通っている。

先ほど、保育園とコミュニティの関係で、もちろんコミュニティ全般の核はコミュニティセンターだと思うが、子育てする世帯にとっては、保育園を中心としたコミュニティがとても大事なものだということをぜひ伝えたい。地域に子どもを預けられず、地域の外に子どもをあずけ、自分は働いている。もし、出張している間に災害が起きたら、どういうふうにもその子どもは守られるのだろうか、地域の中で保護されていくのだろうか、保育園は保育園を利用している子どもだけのものではないとも思っている。武蔵野市の地域防災計画を見ると、保育園は災害時の児童の福祉避難所としても位置づけられている施設だと思っているので、保育園を利用していない人も、幼稚園に通っている人も、家庭で保育している人でも災害時には認可保育園を頼っていくものだと思う。そういった拠点としてもっと力を発揮してほしい。私が地域に参加するきっかけであり、子どもがちゃんと保護されて、育てられていくかたちをとっていただけたらという思いでのコミュニティということなので、全般的なコミュニティとは、少し違うのかもしれませんが。そういった小さなコミュニティがコミュニティセンターと、それぞれつながっていった地域で暮らしていくということになるのではと思う。

#### 【ご意見】

シルバー人材センターや、シルバーの方の保育者としての活用などが、もう少し表に出てきてもいいのかなと思っている。シルバー人材センターに一度問い合わせをしたことがあるが、値段が上がっていて、1時間1,200円だか1,400円ぐらいになっていて少し高めだった。それで結局、使うのはやめたのだが、もう少しシルバー世代で、子育て経験のある方々に手を差し伸べてもらえたらと思う場面が多々ある。そのような対策というか、活用はあるのかどうかというのをお伺いしたい。

#### 【市長】

保育園に関しましては、待機児解消を頑張って進めているということ、ぜひご理解いただきたいと思います。今日は担当課の職員も来ておりますので、4月予定の保育園については、個別

## 第56回タウンミーティング

H26.7.13 開催・0123はらっば

### 意見交換要旨

にお聞きいただきたいと思っています。冒頭にその辺の説明をしたつもりなので、再度ご確認いただければと思っています。ただ、今後も厳しい状況が予想されますので、今年度中にも軌道修正が必要であれば、また軌道修正していきたいと思っています。



それから、保育園が子育て世代のコミュニティの場というのは、私もそうあるべきだと思いますが、やはり地域全体をつなぐということも大いに大切ではないかなと思っています。地域によっては保育園とコミセンがかなりつながっている地域もありますので、そういうことを全市的に展開できたらなと思います。また、基本的には、災害時には保育園に通っているお子様をお守りするというのが大前提でございます。それに加えて、必要に応じて必要なお子様をお預かりするという話になってきますが、原則は、今預かっている子どもたちをしっかりと守るということでご理解いただきたいと思います。

また、地域の人材の活用については、シルバーの方にもいろいろな場面でご協力いただいています。シルバーの方からも、そういう場面に大いに参加をしたいというご意見もいただいておりますが、なかなかそれがPR不足もあってつながっていないということがございます。それからマッチングという問題もあります。うまくそのご家庭と合う方がマッチングできればいいのですが、そのつなぎ方が難しいという現場からの声も伝わっております。それでも、地域では元気で経験豊富な方がいっぱいいらっしゃいますので、そういう方々の知恵と力を子育て世代に応援いただくというのも、これからも大いに注目すべきだと思います。

#### (4)「子ども子育てつながる武蔵野」をテーマにしたプレアンケート意見（抜粋）

##### ●武蔵野市の「ここはいいところ！」

###### 【住環境など】

- ・ 緑豊か、静かで住みやすい。街並みに落ち着きがありきれい。
- ・ お買い物、公園、勉強など、小さな範囲で出来るところ。コンパクト。
- ・ ひととまちの調和がとれている。生活しやすいまち・人に優しいまち。
- ・ 老若男女、お勤め人から自営、学生、アーティストまで多様な人が溶け込める包容力。
- ・ 地域の方がとてもおだやかで、市を皆が盛り上げようという風潮がある。
- ・ 車がなくても自転車があれば、子どもと一緒に市内の大体の施設や公園に行ける。駅周辺に2時間無料で駐輪できる場所が増え、買い物等に利用しやすくなった。
- ・ ブルーキャップやボランティアのパトロール隊等がいつも活動してくれているので、安全で住み良い街だと思う。

###### 【子ども・子育て関連】

- ・ 0123 はらっばや親子ひろばなど親子が集える場所が各地域にあること。
- ・ 子育て施設が充実している。乳児連れでも出掛けやすい。
- ・ セカンドスクールやジャンボリーなど、市独自の取り組みをしている。
- ・ 子どもの頃から参加できるイベントが多い（ジャンボリー、ジュニア大使など）
- ・ 子どもの医療費が無料。
- ・ 保育園の職員の質がよい。食育に力をいれている。
- ・ 認可保育園以外の保育園に通う方への手当が厚いところ。
- ・ 教育水準が高い。
- ・ 地域のつながりがある。（あそべえ、学童、子ども会など）
- ・ コミセンやNPOなど、利用者目線の団体がいくつもある。地域子育て団体の熱意を感じる。
- ・ 子育て関連のサークルも含め、市民活動への支援が手厚い。

##### ●更に「こうなったらいいな」と思うところは？

###### 【人と人とのつながり】

- ・ 中高生もつながっていけるきっかけがあったらいい。青少年と呼ばれる世代の交流や活動が盛り上がると地域が元気になる。
- ・ 昔からある地域団体と市外から転入してきた住民とをつなぐ仕組み。
- ・ 祭りなど、地域の行事の充実。
- ・ 高齢者の方々との交流できる場所、イベントがあったらいいなと思う。
- ・ 学童やあそべえなどの支援施設と高齢者の支援との連携で、放課後、夏休みなど共に過ごせる仕組みを作りたいです。地域、世代をつなぐ役割を行政が積極的に取り入れて欲しい。  
（例）囲碁、書道、手芸など興味がある子ども達と、それを楽しみ、子ども達とも交流しながら楽しみたいと思っている高齢者がお互いに交流出来る場所。（あそべえ、高齢者総合センター、コミセン等）

## 【子ども・子育て関連】

- ・ 保育園待機児の解消。認可保育園をもっと増やす。
- ・ 気軽に短時間でも預けられる。一時保育サービスの充実。
- ・ 保育施設の充実…個人のライフプランを尊重できるよう。(就労以外に、就学や障がいのある方も入れるように)
- ・ 認可、認証、グループ保育などの施設利用上の差を少なくしてほしい。
- ・ 保育園の入所基準の見直しを。
- ・ 利用者の費用負担を平等に。
- ・ 病児保育の充実。
- ・ 障がい児学童の拡大。
- ・ 保育コンシェルジュなど市の側から情報を発信してほしい。
- ・ 第2子以降のケア、助け合い保育の実現など。
- ・ 託児して共働き子育てする保護者同士が助けあえる仕組み。お迎え代行、コミセンや支援施設を利用したシステムなど。
- ・ ママとしての経験を活かした子育て支援活動の促進。→保育園の支援スタッフや子育て支援イベントの増、預かり保育の充実。
- ・ 保育園、幼稚園、小学校等の縦横のつながりの強化。小中学校(PTA)と地域の連携システム。
- ・ 子育て自主サークルがもっと増える。
- ・ 保育園が地域コミュニティの核になる。子どもの年齢に合わせた遊び場紹介や相談にのってくれる人を各地域に。保育園はその役割を担っていると思う。
- ・ 親子ひろば事業など、コミュニティセンターを更に充実させていく。コミセン同士のつながりがもっとあると良い。
- ・ 子育て世代が縦に繋がる仕組みが欲しい。子育て支援活動への市との協働。支援団体への助成がもっと欲しい。
- ・ 地域のお年寄りをはじめ、みんなが子育て家庭を見守り応援してくれる風土づくり。幼稚園や保育園に関わってくれたり、通学の見守りをしてくれたり…。
- ・ 小学生以下の子どもの集まる場所を増やしたり、それを皆に知ってもらう。
- ・ 子どもと一緒に自転車でも走りやすいよう道路整備が進むとよい。自転車レーン、車道にガードレールがあると良い。
- ・ 中部・東部にボール遊びできる公園が少ない。
- ・ 公園に遊具が増えたらよい。遊具の点検や補修は定期的に行う。
- ・ 子どもの心と体の成長や子どもの遊び場の安全性を確保するという観点から、屋内遊び場の整備も必要かなと思います。
- ・ 児童館が西部地域にしかないなので、東部、中部の3か所あってほしい。子どもは段階的に成長するもの。0123、幼、小と区別なく遊べる児童館が必要。
- ・ コミセンを子どもが利用しやすくして、子ども達の居場所や心身の安全の場になると安心。思春期の子たちが大人と交流できる場も貴重だと思う。
- ・ 幼稚園世代(0123以上あそべえ以下)の施設の充実。

- ・ 水辺公園のような所で、赤ちゃんから小学生まで、水あそびが思い切りできる場所があるといい。
- ・ 集団生活に入る前の親子が、遊びながら子育てのちょっとした相談をするところがたくさんあったらいい。
- ・ 学びや遊びのプロを招待した参加型のイベントなど、本物に触れる機会があるとよい。
- ・ 子どもを産みたい、育てたいと思える市に。2人目、3人目を産みやすい環境づくり。
- ・ 男性でも子育てしやすい環境作り。
- ・ 保育だけではない、働く親支援。
- ・ 子育て・教育にまつわる部署の連携。情報共有。
- ・ ワークライフバランスの実現。子育て期には、ママはもちろん、パパの働き方も柔軟にできるような社会。

## ●私にできること

### 【ボランティア活動など】

- ・ ボランティア参加（コミセン親子ひろば・近所の公園の見守り・公園や仙川などの清掃活動等）
- ・ ボランティアを通じて友人を作り、活動を活発化させる。その活動を市に受け入れてもらう。
- ・ 時間があるときに何かボランティアに参加しやすいしくみ。できることを登録しておいて参加すれば、その分をまた誰かに手伝ってもらえるような地域通貨的なしくみ。
- ・ ボランティア活動を通じ、地域の人とつながりを持ちながら自分の子育て力と社会性を磨く。
- ・ 市民会議や議会、教育委員会の傍聴に可能な限り参加し、意見交換していく。仲間を増やす。（仕事をしている人が参加しやすい曜日、時間帯設定が必要だと思います。）
- ・ 普段、子育てをしながら感じるハード面、ソフト面での意見・情報提供。意見をどんどん述べていく。
- ・ 広報などで市長の価値観の発信をしてほしい。価値の共有ができればどんなことでも応援していきたい。
- ・ 子どもが学校に行っている間、働いています。時間が短くてもOKであれば子育て中の主婦の力を動員できると思いますし、報酬があることで家族の理解も得られやすく、責任感を持つと思います。

### 【子ども・子育て関連】

- ・ 託児付き勉強会などで母達が集い、サークルなどが作れたらいい。サークル活動を通してできることがあると思う。
- ・ 子育て世帯と、そこに关われる身近な集まりなどがあると参加できると思う。
- ・ コミセンの子育て支援チーム（八幡町「ほんわか隊」みたいなチームが各コミセンにあると、お互いに参加し合える、多世代交流もできる。）
- ・ コミュニティセンター等を利用しての子ども教室（お料理、工作等）
- ・ 売買のフリーマーケットではなく、子ども用品のリサイクルや交換。
- ・ 商店会ぐるみの子ども参加の行事に協力します。商店会、地域とのふれあいを増やしたい。

- ・ 児童館やコミセンなどのプレイルームで、自分の子どもも遊ばせながら他の子どもを見たり、他のママさん達の相談・悩みを聞いたり、私のことを話したり…など。
- ・ できるだけ支援団体などに参加して、地域と関わり、情報を収集し、子どもとコミュニケーションを図る。
- ・ 共働きしながら子育てをする際の工夫の共有。復帰する親同士の悩みを共有。
- ・ 地域の色々な世代・立場の方と仲良くなって助け合える関係を作りたい。
- ・ 子育てを経験した人としらない人の交流→協力。
- ・ さりげなく「見守る」。子どもを思いやること。
- ・ 常に思っていることは、側にいる子ども達を「愛する」ということ。いろいろな大人に見守られ、愛される経験をたくさんしている子どもは、自信をもった生き方ができると思う。市民誰でもできること。目の前の子ども達に話かけるところからやってみては？
- ・ 災害時、避難所等で子育て世代の部屋を作る。みんなの子どもをみんなで見守る。協力し助け合う。

## ●その他

- ・ 図書館の利用で0 1 2 3歳の子どもを持つお母さんが気兼ねなく利用できる時間を週1回でもよいので作って欲しいです。(例 水曜日 9時～11時 etc) この時間帯だけでも他の利用者や図書館の職員の方が温かい目で見守って頂けると小さな子ども連れでも安心してゆっくりと本選びが出来ます。
- ・ 障がい児や自閉スペクトラムの子ども達のためのソーシャルスキルトレーニングの充実。
- ・ 保育園の活用のしかた(園児でない親子にもひらく)(少人数、親も参加での保育体験)
- ・ 学童保育の数が十分かなど不安がある。
- ・ 保育園児のいる家庭とそうでない家庭で、制度、政策が分断されるようなことはさせてはならないと思う。(桜堤児童館の減少、マル乳の所得制限など)
- ・ 子育てを一人でやろうとしないで、地域やまわりの協力をえながらやっていくといいと思う。
- ・ 公助、共助、自助のそれぞれの課題がありますが、各々、均等にその役割と内容を明確にすること—合意することが大切だと思います。
- ・ 子どもは地域社会全体の宝であり、未来だと思えます。その子どもたちを生き生きと育てていけるように、親たちが安心して子どもを預け、暮らしていけるように。
- ・ 市にもっともっと先を見据えた、市民の育成を要望します。子育ては苦勞して当たり前。頭を上げて、自分達の要望を言う人より、一生懸命頭を下げて子ども達の育みにたずさわっている団体と手を取り合って、骨太の政治に取り組んでもらいたい。まず、市に、親とはどうあるべきかを考えてほしい。市には勇気をもって「親」を育てることを考えてほしい。他市とは違う、地に足のついた試みをお願いしたい。
- ・ 今日ここに来ている人たちは育児中の人たちが多いと思うが、ここに来ていない人達の要望なども含め、色々な相反する要望とのバランス感覚が大切だと思う。市長はどのような市政を運営されたいのか聞きたい。広報などではあまりPRされていないと思われる。

## (5) 閉会のあいさつ

### 【平湯理事長】



グループを回ってみて、皆さんがいろいろな立場の中から子どものことを考えている、それをこのグループの中で発信していくというところにすごく感動しました。感想の中に、こういう話せる機会があってよかった、こういう方たちと出会える機会があってよかったという感想があって、これが本当に続いてほしいと思いました。

今、やはり施設の話がたくさん出ていましたが、その中でもせっかくある施設をきちんと有効利用しようとか、今ここまでできている施設だから、さらにプラスアルファを加えることで、もっとよくなるのではないかという意見がわりと出ていたように思います。例えばコミセンを知っている、児童館も知っている、通っている学校もある、そういうところがさらに充実していくというような仕組みづくりだったり、PRということを市のほうでもやっていただきますが、私たちとしてもかかわっている人間として、自分たちでできること、かかわっている中でよりよくしていくことで、何ができるかということ、きちんとつなげるために膨らませていくというか、そういう働きかけが大事なのではないかと思いました。

市報に載っている情報のパブコメなどに参加しましょうというのは、そうやって市の職員だけがつくる仕組みではなくて、全員がいいねということはないかもしれないけど、市民も一緒に考えて、全員が少しずつかかわり合ってきた仕組みというふうになっていくのが、その後も生きていく仕組みにつながっていくのではないかと思いました。

また、市の職員も、すごく勉強会をしているという話を伺ったりしています。今、市のほうも、縦割りと言われていた中で横のつながりをつけていくというところを進めているそうなので、そういうところに期待していきたいと思いました。

最後に、当日までにいただいた声というの、後ろのほうに張ってあります。今日は、一人も発言なく終わることはなかったという、皆さんが考え合ってきた会だったと思います。すごくいい時間でしたし、これからどんどんつなげていくためのきっかけになるといいなと思いました。どうもありがとうございました。

**【市長】**

今日のこのタウンミーティングは、言いつ放しで終わるわけではございません。例えばボードに張っていただいたご意見は全て、職員のほうで整理をして、市の見解を加えたうえで、報告書の形にいたします。また、その中の対応方針等にご意見がある場合は、担当課に直接お問い合わせいただくか、別の機会にお話を伺えればと思います。今、国の制度がいろいろ動く中で、もちろん制度をきちんと運用しなければなりません。市としてはその制度運用だけでなく、やはり武蔵野市としてふさわしい子育て支援、あるいは幼児教育も含めて子どもたちの環境整備に努めていきたいと思っています。そして、誰もが安心して暮らし続けられる、その中でも子育てしやすいまちをますます目指してまいりたいと思いますので、これからもどうぞよろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。



## 2. 当日いただいたご意見と市の回答・対応方針

(※アンケートでいただいたご意見、ご提案も含みます。また、同じ趣旨のご意見等については、一部割愛しています。)

番号	分類	ご意見	市の回答・対応方針
1	待機児対策	待機児の解消。 絶対的に保育園が不足しているのを解決してほしい。 4月に入れる保育施設をもっと増やしてほしい。	平成25年度に引き続き平成26年度も待機児童の解消のため保育施設の整備等を行っており、平成27年4月1日には、認可保育所(仮称)ニチキッズむさしの八幡保育園が開園する予定です。待機児童対策として、平成26年度の1年で定員枠を300以上増やす見込みです。 今後は子ども子育て支援新制度による保育の必要量の見込みに対し、計画的に保育施設の整備を行っていくこととしています。
2		保育園の入所基準の見直しをしてほしい。 200点満点だったら入れるような状況じゃないと、全く保育園の意味がない。	従来の認可保育園だけでなく、保育ママやグループ保育室、認証保育所など様々な施設の設置により待機児対策を実施しています。 フルタイムの方が入所可能となるよう、これからも待機児童解消に取り組んでいきます。
3	保育料	利用者の費用負担を平等に。 認証保育所に通っているけれど、保育料が高いので支援をしていただきたい。	平成27年4月から「子ども・子育て支援新制度」がスタートする予定であり、新制度開始に向けて保育料審議会を設置し、現在の認可保育所、家庭福祉員(保育ママ)、グループ保育室、一部の幼稚園に通う児童についての保育料を検討しています。その中で、さらなる保育料格差是正に向け検討していきます。
4	一時保育	もう少し一時保育の制度が本来の形で利用されるようになってくれれば2人目、3人目も産みやすくなるのではないかな。	現在、一時保育は、受付開始と共にすぐに予約枠が埋まってしまう、リフレッシュ目的などの方が気軽に利用できる状況ではない施設も見受けられます。 一時保育の施設数を増やすなど、今後より充実が図れるよう検討していきます。
5	病児保育	病児保育を充実してほしい	現在、市内には病児・病後児保育室(プチあんず)1か所、病後児保育室(ラホール)1か所の計2か所に対応しており、徐々に利用者数も増えてきている状況です。今後は、現在の利用状況や地域性等を考慮し、必要に応じ増設等も検討していきます。(対象は生後6か月から小学3年生)
6	学童保育	学童保育の数は十分なのか。 障がい児学童の拡大。	平成26年度は入会希望者が全員希望するクラブに入会しています。今後も障がい児も含め、入会希望者の増加が予想されますので、受入体制及び育成環境の整備に努めて参ります。
7	障がい児支援	障がい児や自閉スペクトラムの子ども達のためのソーシャルスキルトレーニングの充実。	市では、学校教育において、情緒障がい等通級指導学級で、ソーシャルスキルトレーニングを行っています。第四小学校はなみずき学級、桜野小学校こぶし学級、第二中学校こぶし学級に加えて、平成26年4月に井之頭小学校に「かわせみ学級」を新設するなど充実を図っています。 情緒障がい等通級指導学級では、子どもたち一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導を行っています。例えば、ソーシャルスキルを身につけたいという意欲を高めたり、練習し、振り返りをしながら、定着を図る取り組みを時間をかけて行うこともあります。また、普段の小集団での話し合い活動などでもソーシャルスキルを学んでいます。今後も一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援を充実していきます。  また、児童発達支援事業、放課後等デイサービス事業などでもソーシャルスキルトレーニングを取り入れている事業所もあり、多様なプログラムを展開しています。

番号	分類	ご意見	市の回答・対応方針
8		男性でも子育てしやすい環境づくりをもっと進めていったらいいのではないかな。	企業や子育て家庭に向けてワーク・ライフバランスの啓発を進めるとともに、男性向けの家庭教育・育児支援講座なども引き続き実施していきます。
9	子育て支援	シルバー人材センターや、シルバーの方の保育者としての活用などが、もう少し表に出てきてもいいのかなと思っている。	シルバー人材センターが子育て支援として契約しているご家庭には、ご意見のとおり時間当たり1,200円程度をご負担していただいております。 契約金額においては、「民業圧迫」とならないよう近隣センターや同業種の値段を参考に設定しております。 シルバー人材センターの就業には一定範囲内の制約がありますが、今後研究していきます。  高齢者だけでなく地域の人材を生かした、地域社会全体による支え合いの仕組みづくりを進めていきます。
10	子育て支援	認可保育園、認証保育園などが地域の中心となって子育てをサポートできるような仕組みができ、充実していけば、一人で困っているお母さん、お父さんもいなくなっていくのではないかな。	来年4月に、地域社会全体で子どもと子育てを支える「子ども・子育て支援新制度」がスタートします。本市としても、今後、新制度の取組みを進めていきます。  公立保育園では、地域との連携強化を図るため、平成26年4月より境保育園、境南保育園に地域担当を配置しています。 また、現在保育園でもチラシの配布やポスター掲示等地域の情報発信を行っており、今後も地域の方々の様々なニーズを把握し、充実を図ります。
11	子育て支援	集団生活に入る前の親子が遊びながら子育ての相談をするところがあるといい。	0123施設などの「子育てひろば」では、スタッフによる相談事業を行っています。お気軽にお声掛けください。
12	子育て支援	託児して共働き子育てする保護者同士が助け合える仕組みづくり(お迎え代行など)や、ママとしての経験を活かした子育て支援活動(保育園の支援スタッフなど)を進めてほしい。	子育ての経験を生かした取組みは、0123施設などでも進められていますが、先輩ママ・パパや子育て中の家庭を含めた支え合いの仕組みづくりについても、今後検討していきます。
13	児童館	児童館が西部、東部、中部地域の3か所にあってほしい。子どもは段階的に成長するもの。0123、幼、小と区別なく遊べる児童館が必要。  兄妹が、少なくなっている世の中で年齢を超えたかかわりができるのは児童館とか、そういう区別のない施設ではないかと思う。	児童館では、コミュニティーセンターを利用して、児童館活動に参加しづらい地域の子どもたちを対象とした催しも実施しています。学童、あそべえの連携を深め、そこに児童館的な機能を付加していく等、児童館機能を全市的に展開することで拡充を図っていきたくと考えています。  コミセンの活動には、地域住民の自主運営だからこそできることがたくさんあります。また、コミセン親子広場等、コミセンを利用した子育て事業を通じて、自主的な子育てサークルも誕生しています。コミセンの利用を通じ、頂いたご意見のようなアイデアについても、コミュニティー協議会に対して、どんどん提案していただきたいと思います。
14	施設	児童館とコミセンをドッキングさせたような施設で、子どももおじいちゃんおばあちゃんもかかわりながら、見守りながら子どもたちの成長を見届けられたら、いいのではないかなと思う。	児童館活動に参加しづらい地域の子どもたちを対象に、コミュニティーセンターを利用して、移動児童館コミュニティーわいわい広場を実施しています。 コミセンを活用していくなかで、このような異世代交流ができればいいのではと考えております。

番号	分類	ご意見	市の回答・対応方針
15		幼稚園世代の施設について、施設だけではなく中身も充実させてほしい。	子育て施設の充実のためには、量だけでなくその質も重要であると認識しております。施設のハード面、ソフト面双方、利用者が満足できる施設を目指していきます。
16	施設	こどもの心と体の成長やこどもの遊び場の安全性を確保する観点から、屋内遊び場の整備も必要かと思う。	未就学児親子の遊び場としての機能を持つ施設として、平成26年4月に境こども園「いこっと」、7月に「すくすく泉」を開設しました。これらの施設の実施状況を検証しながら、今後の整備方針について検討を進めていきます。
17	施設	赤ちゃんから小学生まで、水遊びが思い切りできる場所があるといい。	子どもたちが水辺で遊べる公園は中道公園(吉祥寺本町3-10)と関前公園(関前3-14)があります。水遊びができる期間は毎年7月中旬から9月中旬までとしています。平成26年度は7月15日から9月15日の間、実施していました。  ただし、赤ちゃんから小学生までという遊びの幅の異なる年齢層それぞれに対応する水遊び場所の設置については、安全管理の面から十分に研究する必要があります。
18	施設の利用方法	プレイスのパフォーマンススタジオを借りたが、誰かに見せるためのものではないため、次回以降は使えませんかと言われてしまった。 施設の維持管理にお金がかかることは非常によくわかるが、だとしたら運用上で、弾力的に使っていかないといけないのではないか。そういったところが各施設の実際の担当に伝わっていないのではないか。 利用目的を細分化してしまったり、せっかくある建物も使えないと思うので、市としての運営方針を現場レベルまでおりていくようにしてほしい。	施設については利用促進を図る一方で、各施設に応じた利用のルールを定めていくことは重要であり、加えて施設ごとの柔軟な対応というものもあってしかるべきです。ただし、利用者が多い場合などは利用の制限の部分を明確化して運用を行う方向もありえますので、多くの利用者の皆様からのご意見をききながら、今後も検討していきたいと思えます。  プレイスのパフォーマンススタジオは、地下2階青少年フロアの一角にある施設で、青少年の自主的な活動を支援するために運用面で様々な工夫をしています。例えば、休日や平日午後の青少年の利用を促進するために、20歳以上の成人の方には(夏休み等の長期学校休みを除く)平日の9:30から14:30までのご利用にご協力いただいておりますし、「誰かに見せる＝発表につながる」利用とすることにより、ダンスや演劇などの発表会に向けて青少年が目的を持って自主的に練習ができるようにしています。これらは市の運営方針に沿ったものです。また、今後の利用に関しては、利用状況をみながら、当初の目的を損なわない範囲での運用を検討して参りたいと思えます。
19		西部地域にある市民会館の保育室も開けてほしいという声もたくさんある。せっかくある施設がもっといろいろな形で利用できるような方向にしていいただければと思う。	市民会館は、社会教育活動の場とし、社会教育を目的として活動する団体に貸し出しておりますが、平成25年度には、境こども園の工事遅延に伴う代替施設として、市民会館内に分園を開設した経過がございます。今後も、公共施設の有効活用については、研究していきます。なお、未就学児のお子さんを持つ親を対象に、現在プレイルームを開放していますのでこちらをご利用ください。

番号	分類	ご意見	市の回答・対応方針
20	施設の利用方法	図書館の利用で、0123歳の子どもを持つお母さんが、気兼ねなく利用できる時間を週1回でもよいので作ってほしい。	市立図書館では、子どものフロアを大人が利用するフロアと区別しており、多少子どもが泣いたりしても一般のお客様に迷惑がかからないように配慮しております。ただし、一般のお客様がご利用になるフロアにお子様をお連れになると、騒がしいなどの苦情等があるため、職員からお声を掛けることがあります。今回のご要望は、そういった一般の図書等のフロアについても、配慮してほしいというご希望かと思われませんが、全館で一定時間お客様にご理解をいただくことは、なかなか難しいことですが、スペースを区切るなど工夫をして、ご要望にお応えできるか、検討していきたいと考えます。また、市内3館で、それぞれ建物の構造や規模等の違いがありますので、併せて検討いたします。
21		保育園が地域コミュニティの核になっていって、地域との触れ合いができるといい。共働き家庭でも保育園を通じて地域に貢献できるようなコミュニティ形成をやっていたらいいと思う。	<p>来年4月に、地域社会全体で子どもと子育てを支える「子ども・子育て支援新制度」がスタートします。本市としても、今後、新制度の取組みを進めていきます。</p> <p>今年度より市立保育園に2名の地域担当を配置し、地域子育て支援事業を中心に地域の認可外保育施設との連携もはじめています。</p> <p>また、地域コミュニティの中で、保育園がどのような役割を担えるか検討を進めます。</p>
22	コミュニティ	世代間交流や、学校と保育園・幼稚園などの縦の連携があるといい。	<p>世代間交流については、コミセンでの交流を原則としていますが、それ以外は様々な施設で行われる地域のイベント等、ソフト面で解決していくものと考えています。幼稚園、保育園と小学校との縦の連携については、強化に向けた具体的な取組みや事業の実施方法などについて、現在検討しています。</p> <p>現在、各認可保育園にて地域の高齢者施設、小学校などとの定期的な交流を行っています。また、地域のボランティアの方々との交流も大切にしています。</p> <p>小学校入学を控えるお子さんを対象に、ご家庭や幼稚園・保育園などでの様子や保護者の思いなどを、入学前に小学校に引き継ぐため「就学支援シート」を毎年10月に配布しています。このシートによって、小学校関係者はお子さんの様子を入学前に知ることができ、一人ひとりにあった指導・支援を早期に行うことができます。</p>
23	コミセン	<p>コミセンが子どもが利用しやすく、子ども達の居場所や心身の安全の場になると安心。思春期の子ども達が大人と交流できる場も貴重だと思う。</p> <p>コミセン同士のつながりがもっとあるとよい。</p>	<p>コミセンには、ロビーや体育館など、子どもが自由に利用できるスペースを持っている施設もあります。学校の近く等に設置されているコミセンは、毎日多くの子どもが利用しています。夏祭りや文化祭では、子どもからお年寄りまでたくさんの地域の方が集う機会となっています。</p> <p>コミセンでは、ネットワーク事業として、複数のコミセンが共同して地域の課題について話し合ったり、コンサートを行うなどの連携を行っています。また、3月には、全コミュニティ協議会の共催で「コミセンスタンプラリー」を開催しています。</p>

番号	分類	ご意見	市の回答・対応方針
24	ネットワークづくり	さまざまな世代の人たちが、相互理解のためにかかわれる、ボランティアなども含めて参加しやすいネットワークづくりみたいなものができる、ふだん仕事をしていて何も参加できないような人でも、やってみたいと思うようになるのではないか	地域のボランティアについては、地域福祉活動推進協議会（地域社協、福祉の会）、ボランティアセンター武蔵野（VCM）等で様々なイベントを行っています。イベントの告知は、市民社会福祉協議会のホームページや、広報紙「ふれあい」でお知らせしていますので、ご覧いただき、興味のあるものにぜひご参加ください。  地域課題を自ら考え、行動していただくことにつながるよう、地域での人脈作りや課題把握のきっかけとなるような事業を「地域貢献活動推進事業」として実施しています。また、武蔵野プレイスには市民活動支援機能があり、登録団体の活動状況が分かるほか、市民活動を始めるきっかけづくりとなる事業、団体同士の交流を図る事業などを実施し、「何か活動をしたい」「市民活動団体を紹介してほしい」といったご相談にも対応しています。
25	情報	保育コンシェルジュなど、市の方からもっと情報を発信してほしい。幼稚園などの情報を、それぞれの幼稚園や保育園に行きとってきているが、まとまったところでワンストップで話が聞けたりするところもあったらいい。	今年度より保育コンシェルジュが2名体制となり本庁での窓口、電話対応にとどまらずコンシェルジュ通信の発行、子育て支援施設や各保育園、コミセンの広場事業への出張相談を始めました。今後もより利用しやすくなるよう相談体制の充実を図ります。
26	公園	ボール遊びができる公園が、危ないから禁止となってしまうところが増えている。中部や東部地域、それから境南町は、近くに思い切りボール遊びのできる場所というのがない。	市内の公園は、原則中学生以上のボール遊びを禁止しています。小学生以下のボール遊びに関しては、高いフェンスで囲まれている等のボール遊びがしやすい公園の利用を推奨しています。中部には城山仮設広場（西久保3-9）、東部には本田東公園（吉祥寺東町4-18）、境南町には境本公園（境南町3-14）などがあります。また公園ではありませんが、緑町スポーツ広場（緑町2-2）も球技施設として利用可能です。
27		公園に遊具が増えたらよい。遊具の点検や補修は定期的に行う。	公園新設・改修工事の際に利用状況を調査し、遊具の安全領域を確保した上でニーズに合った遊具を設置しています。遊具の点検については毎月1回の頻度で目視・触診、必要に応じて打診・聴診をしています。また毎年1回専門家による遊具診断調査を行い健全度ランクに分類し、計画的に補修・更新など安全管理に努めています。
28	市民意見	市民の思いが行政に反映されるような仕組みをもっとつくて、いろんなアイデアを実現してほしい	市では、市民ワークショップやパブリックコメントの実施、委員会等における市民委員の募集等、さまざまな場面で市民参加の機会を設けております。これからもより多くの機会を提供すると共に、市民の皆様のご意見を市政に反映する仕組み作りを進めていきますので、是非ご意見をいただけますようお願いいたします。
29	運営方針	市長がどのようなまちの運営をしたいと思っているのかなどを、広報紙等でもっとPRしてほしい。	市政の運営に関して、施政方針を市ホームページ、また市報などを通じて広報しておりますが、今後も市報のコラム、ケーブルテレビ出演、ホームページの活動日誌などの機会を活かし、日々の考えをお伝えしてまいります。

番号	分類	ご意見	市の回答・対応方針
30	災害対策	<p>保育園を利用していない人も、幼稚園に通っている人も、家庭で保育している人でも災害時には認可保育園を頼っていくものだと思う。そういった拠点としてもっと力を発揮してほしい。</p>	<p>災害時における公立保育園等では、発災直後から、園児の生命及び身体の安全並びに保育の確保を最優先に応急保育体制をとります。  また状況に応じて、保護者が帰宅困難者又は行方不明者となった乳幼児、自宅や避難所での生活が困難な乳幼児がいる家庭のための保育園型福祉避難所としての活用を予定しています。</p>

### 3. アンケートでいただいた感想

(※アンケートの自由回答欄でいただいた感想のうち、主なものを掲載しています)

1	双方向の意見であったのでとてもよかった。班の振り分けを工夫できるとよいと思います。様々な立場からの意見をバランスよく集約できればと思います。
2	色々立場の違う人たちから、色々な意見が聞けて大変良かったと思います。今回出た意見を市政にきちんと反映して頂きたいです。特によく言われていた地域とのつながり作り、保育所の充実、よろしくお願いします。
3	同じ子育て世代の方々と意見交換ができて、とても勉強になりました。
4	立場の違う人がラウンドテーブルで意見を出し合え、結果として、地域で子育てで助け合える市に、といったところに落ち着いたのが興味深かった。普段は仕事と子育てでいっぱいなので、このような機会に市長と市民の交流ができてよかった。最後の意見交換が一番重要だと思います。時間をもっと確保できたらもっと意見が出しやすいですね。
5	市長に伝えたいことがあってきたのに、グループで話し合うという形で直接話すことをごまかされた感じがします。本当に言いたいことがあって来た人には無意味な会だと思いました。
6	色々な方の意見を聞くことができ良かったです。子育てに関して、こんなにも興味や前向きな方がいらっしゃることもそのものが武蔵野市の宝のように思いました。これらの方々の思いを活かせる環境作りをやっていただければうれしいです。

# 第56回 市民と市長のタウンミーティング

子どもが笑顔で育つ街に…

大人みんなで、想いやアイデア

持ち寄って考えてみませんか？

日時

7月13日①

10:00~12:00

会場

0123はらっぱ

武蔵野市八幡町1-3-24

\*お車でのご来場は  
ご遠慮ください



みんなで考えよう！

テーマ

## 子ども子育て



## つながる武蔵野

子育て中のおとうさん、おかあさん、  
地域の大人たち、

これからパパ・ママになる学生さんも、  
地域で活躍中の団体の方も…！

子育てについて、皆さんの声をお寄せください！

平成27年度スタートの「第四次子どもプラン武蔵野」、  
そして「子ども・子育て支援新制度」に向けて、  
武蔵野市では話し合いを重ねています。



主催

武蔵野市 / 特定非営利活動法人  
子育て応援スペースとことこ

協力

武蔵野市子ども協会

問合せ

武蔵野市役所市民活動推進課市民相談係  
Tel. 0422-60-1829 Fax. 0422-51-2000

託児  
あります

対象：1才以上未就学児

定員：10名

7月4日(金)までに  
市民活動推進課まで  
お申し込みください。

\*1才未満児は保護者のおひざの上で  
参加可能です



# 第56回 市民と市長のタウンミーティング

地域みんなが  
応援団です!

テーマ

みんなで考えよう!

記入して当日  
お持ちください  
来れない方は  
下記宛先まで!!

## 子ども子育て つながる武蔵野

子育てについて、思いやアイデアを持ち寄ってみませんか。  
子育てについてみなさんの声をお寄せ下さい!

### プレ・アンケート

武蔵野市の「ここはいいところ!」

更に「こうなったらいいな」と思うところは?

協働

私にできること こんな仕組みがあったら市民も応援できる!私も応援できる!ことは?

その他ひとこと ご自身の立場から思うことなど

当日参加できない方で、上記のテーマについて市長にアイデア、ご要望などある方は、上記枠内にご記入の上、  
市役所市民活動推進課・各市政センター・0123はらっぱ・子育て応援スペースとことこにお届けいただくか、  
Faxで市民活動推進課（0422-51-2000）にお送りください。

第56回

テーマ別  
市民と市長のタウンミーティング

報告書

発行 平成26年11月  
武蔵野市 市民部 市民活動推進課  
武蔵野市緑町2丁目2番28号  
電話(0422)60-1829 (直通)